



新聞で
読解力アップ!

ワークシート

作付け減 需要底堅く

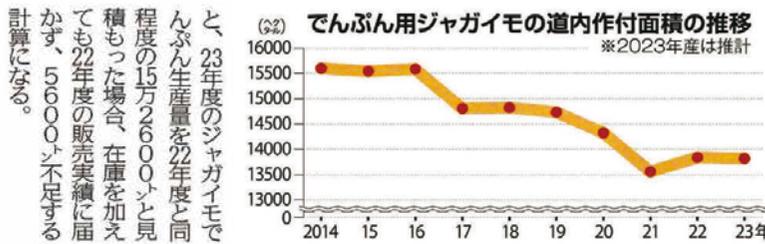
道内産のでんぷん用ジャガイモが不足する懸念が強まっている。ジャガイモは比較的、生産に手間がかかるとともに、作付面積が減少傾向にある一方、一定の需要があるため、ホクレンは生産者の収入が増えるよう加工業者への販売価格を引き上げ、増産を呼び掛けている。

でんぷん用ジャガイモは国内のほぼ全量を道内で生産している。品種は「コナヒメ」や「コナユタカ」が主流で、大半を農協系の工場へ加工。片栗粉など食品のほか、薬用オブラートや錠剤などの医薬品、段ボール製造に必要な接着剤などに幅広く使われている。

ただ、収穫時に人手が必要で、ここ数年は省力化しやすい小麦や大豆に置き換

でんぷん用イモ不足

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしましょう。



ホクレン 増産へ販売価格上げ

ホクレンは「需給は危機的(でん粉課)として、昨年から対応を検討。今年に入り販売量を制限する一方、25年の作付面積を22年比6%増の1万4700トに広げる目標を掲げ、農家の収入につながるでんぷんの販売価格も今年1月から1割引き上げた。種イモの準備が間に合わなかったため今年の作付け拡大にはつながらなかったが、来年以降の増産を促している。

道内のでんぷん用ジャガイモは約7割がオホーツク管内、約3割が十勝管内で生産されている。昨年から肥料価格高騰で、選別基準は厳しいが価格が高い生食用ジャガイモを選ぶ動きが強まっており、ホクレンの呼びかけに生産者が応えるかは見通せない。

十勝管内更別村の6・2号ででんぷん用を栽培する木山卓也さん(52)は、価格動向などを踏まえた上で生産拡大を検討する考えで「農家の手取りが納得できる水準まで増えなければ、でんぷん用はさらに減るのではないかと指摘している。」(古谷晋世)

『北海道新聞』2023年7月16日(日)朝刊(全道版)

(1) とありますが、ジャガイモを加工してできるでんぷんは、どのような用途に使われていますか。

(2) について、次の①、②に答えなさい。

① 2023年の作付面積は、2014年の作付面積のおよそ何%ですか。グラフから読み取った数値をもとにして求め、上から1けたのがい数で答えなさい。

およそ _____ %

② でんぷん用ジャガイモの作付けが減っているのはなぜですか。他の作物やでんぷん用以外のじゃがいもとの比較から、簡単に説明しなさい。